

海外研修訪問先（1）

JICA タンザニア事務所訪問

タンザニアの国の概要や JICA 事業タンザニアへの援助方針、重点分野等について学ぶ。また、本研修のスケジュールや視察先の確認を行い、タンザニア滞在中の安全面、健康面の注意事項や各セクター（教育、道路、水セクター）の現状・支援内容を担当職員より説明を受けた。

1. 市内視察（教材購入）

ダルエスサラーム市内の書店（2件）で帰国後に利用する教材を各自購入。帰国後の授業で使用する教材を購入できたことで、今後の学習計画を立てやすくなった。



2. ミクミ国立公園

イリンガまでの移動中、ミクミ国立公園を通過。キリンや象などの自然動物を観察することができた。



3. クレルー教員養成学校訪問

教員養成学校の生徒（約50名）との交流を行った。まず、自己紹介を行い、参加教員を含め5グループに分かれ、意見交換・質疑応答を行う。次に同校で活動する青年海外協力隊員（職種：PCインストラクター）の授業を見学（生徒数20名）した。

タンザニアで未来の教師となる生徒との意見交換会は参加教員にとって非常に有意義なものとなった。参加教員からは、現地での学校様子について質問し、生徒からは、活発に日本への質問があった。特に「日本はどのように経済成長を遂げたのか?」、「タンザニアにはどのようにすれば日本のように発展することができるのか」という2つの質問が印象に残った。



4. イフンダ中等学校訪問

青年海外協力隊員（職種：理数科教師）が活動を行っているイフンダ中等学校を訪問。

生徒との交流（30人）を行う。イフンダ中等学校の生徒が事前に興味を持っていた日本の原爆について、参加教員が英語で説明・質疑応答を行った。「なぜ日本に原爆が落とされたのか?」、「戦争が始まったのはなぜか?」、「現在も被爆者がいるのか?」等活発な質疑応答が行われた。



海外研修訪問先（2）

5. ンゴメ小学校訪問

青年海外協力隊員（職種：小学校教諭）が活動しているンゴメ小学校を訪問。学校の校庭にて生徒による歓迎の歌・ダンスが披露された。その後、参加教員から自己紹介・日本の歌とタンザニアの歌を披露した。

参加教師の8名の内5名は、小学校教諭であったため、小学校訪問を楽しみにしていたので、生徒との交流の時間を持てたことは参加者にとって貴重な経験となった。また授業を通して、日本の子どもとタンザニアの子どもの反応の違いなどを感じ取ることができた。教師・学校関係者（20人）との意見交換会では、タンザニアの教育の現状や日本の子ども達にタンザニアについて何を伝えてほしいのかを話し合った。



6. ムクワワ博物館見学

ドイツ帝国の進出に抵抗したへへ族の指導者ムクワワ氏について歴史や功績を現地の住民から説明を受ける。タンザニアを語る上で欠かすことのできない部族の誇りと英雄の歴史を学ぶことができ、より深い知識を得ることができた。

7. 地方道路開発技術向上プロジェクト視察

プロジェクトで活動する専門家よりプロジェクト概要説明（地方道路の現状、LBT（労働集約工法））を受ける。また、村人との意見交換を通し、村の道の現状、交通手段などの情報を得ることで、いかに県道が村人にとって必要かを理解した。



8. イリングガ周辺隊員による市内見学

イリングガ周辺で活動する青年海外協力隊員の方々（6名）の案内で地域に密着した市場などを見学。タンザニアの人々の生活に密着した場所を訪れることによって人々の生活を実感の様子にすることができた。

9. キブグモ首都圏周辺地域給水計画視察

水プロジェクトが行われている地域を訪問。また、近隣小学校のトイレやコミュニティの井戸、タンクなどを視察し、住民によって構成されている水管理組合の管理体制について質疑応答を行い、村における水供給の現状について知識を深めた。



海外研修訪問先（3）

10. JICA タンザニア事務所での討論会

討論会のテーマは、「タンザニアの国内格差」。事務所の職員を交えて3グループに分かれて「タンザニアの国内格差を感じるのは?」、「国内格差をなくすために必要なことは?」、「国内格差をなくすために JICA ができることは?」、「国内格差をなくすために私達にできること?」について議論を行った。

研修を通して学んできたタンザニアの現状・問題点について復習することができた。

また、研修を終えて、日本に戻ってから参加教員が学校の生徒に何を伝えていくかを改めて考える機会となった。

